

## 背戸裏山の四季と自然ウォッチング

### *Watching the Seasons of Nature and Mountain Behind*

岩崎行伸

静岡/清水/馬走/裏山の四季の移り替わりを身近に観察・確認できる場所である。毎早朝には体調管理のため、デジタルカメラ(フジフィルム)と携帯電話・録音機を持って、散歩に出かけることが一日の日課となっている。

朝食後、デジカメのメモリーをパソコン(FUJITSU)に保存と、プリントアウト(EPSON)する。自然ウォッチングとして、景観は富士山の雪の有無・姿を観察しカメラに収めている。生きものであれ何んでも、樹木の実(樹木図鑑)・旬野菜(やさい)、花(野草のおぼえ方・散歩の花図鑑)・蝶・昆虫(野外観察図鑑)・野鳥(野鳥観察図鑑)等々を観察したものを撮影し「図鑑」から種名検索した。

春:

未だ寒いのに、咲き始めた梅の花を目にすると、春の足音がそこまで来ていることに気づく。花見の花を指すように、桜は春を代表する花として古くから親しまれて来た。桜は日本の国花として知られて、全国いたるところに植えられている。その品種は300種以上にも達しているという。それだけに、日本の気候・風土に最も適した樹木の一つといえる。

背戸裏山の梅の開花は、年々の気温により異なるが、3月上旬頃で、下旬に入ると、桜が開花し、4月上旬頃には満開と桃の花を満喫できる。

野鳥では、ウグイスが「ホ-ホケキョ」という鳴き声を聴くと、春が来たことを実感させてくれる時である。このことは、「♂が♀に対して求愛するときと、♂同士が警戒し合うときに発する鳴き声である。また、「ケキョケキョケキョ」という鳴き声も、♂が互いに縄張り争いをするときの声ともいわれている。ウグイスは笹やススキなどの葉を利用し、横穴式の丸い巣造りし、4~6個の卵を産む。♀が抱卵してから略15日位で孵化する。

5月の新緑期の頃、背戸裏山に登り散歩中、見つけた樹木実は、ビワ・カキ・クリ・ミカン等の花が咲いているのを観察できる。散歩コースに見る、これらの樹木実の生



A



B



C



D



E



F



G



H



I



J



K



L

Photo by Y. IWASAKI

図 1 背戸裏山の四季と自然ウォッチング-I (A: 桜3月、B: 鶯4月、C: 梅5月、D: 無花果5月、E: 琵琶5月、F: アゲハ6月、G: モンシロ蝶6月、H: 加子8月、I: ヒョウモン蝶7月、J: 紅シジミ7月、K: コヒョウモン8月、L: 胡瓜8月、

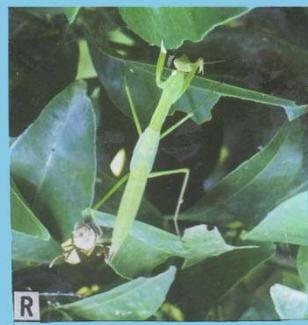
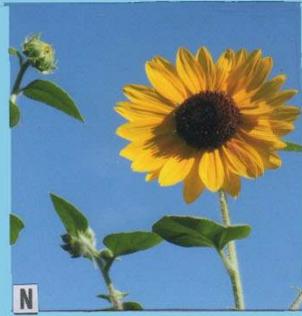


Photo by Y. IWASAKI



図2. 背戸裏山の四季と自然ウォッチング-II (M: 苦瓜 8月 N向日葵 8月、Oキジバト 8月、Pツユムシ 8月、Qオンブバッタ 8月、Rカマキリ 9月、Sショウリョウバッタ 9月、Tコスモス 9月、栗 10月、V柿 11月、W蜜柑 11月、Xメジロ 12月)

育を記録することが主な目的の一つである

## 夏:

初夏の頃、蝶の種類はモンシロチョウ・クロアゲハ・アゲハチョウ・キチョウ・ツマグロヒョウモン・コヒョウモン・ベニシジミ・ヒメウラナミジヨノメ等々が花から花へと乱舞しているところを観察される。花では、旬野菜の茄子・胡瓜・苦瓜・南瓜・トマトの花と向日葵が家庭菜園に咲いている。

昆虫では、ツマグロイナゴ・ショウリョウバッタ・カマキリ・クツワムシが観察される。

盛夏の味覚として人気のあるビワは、温暖な気候地を好んで花と実が生る。その実は黄色で葉や種は咳止めとして利用されている。

背戸裏山では連日蝉時雨を聴く。種類はクマゼミやアブラゼミである。

野鳥ではキジバトの親仔が杉並のハイキング道に出て、索餌をしているところをよく見られる。

## 秋:

静岡の柿は9月頃から色付き始め、10月に収穫される。富有・次郎の甘柿と平種なし・会津身不知等の渋柿が知られている。渋柿は枝ごと実を採り、皮を剥いて吊り下げておくと甘い干し柿になる。

樹木実はいヌビワの実、ノブドウ、チャノキの実、アラカシ、サネカズラ、コナラ(どんぐり)、いヌビワ、クスタビ、いヌマキ、ヤマコウバシ、サルトリイバラ、ヘビイチゴ、ナンテン、センリョウ、マンリョウ、サルナシ、ゲツケイジュ、アオキ等々が実り、野鳥の餌となっている。

蜜柑は早生種が黄色付き、至ところで収穫されて、道端の無人露店に並べられている。栗は台風の後、散歩コース上に可なり落ちている。

裏山の紅葉は色付き、身近に秋彩を呈し満喫できる。

## 冬:

背戸裏山に登ると、日本平行きハイキング・散歩コースにおいて北向きに白い帽子を被った日本一高峰・富士山(3776m)、西向き方位には南アルプス連山(3000m級)が身近に眺望できる。特に雨上がりの翌日には空気が乾燥していて360度の見晴し素晴らしい。

野鳥では、メジロ・キツツキ・ヒヨドリ・ツグミ・ハシボソカラス等の囀りが響き聴こえる。

## 参考文献・資料

- 1) 自然大格物館（1992）：植物・鳥類・昆虫類、小学館、相賀徹夫編著
- 2) 樹木図鑑（2011）：(株) 日本文芸社、鈴木庸夫著

---

- 3) 光と影と彩の旅へ（2012）：YAHOO JAPAN ジオシティーズ、私が歩いてきた道、第十五部・No. 959. 背戸裏山の景観と生き物たち、by 岩崎行伸
- 4) 海鳴会HP（2011）：背戸裏山の生き物たち、蝶や昆虫たちの生活環境、Googlew、岩崎行伸著

## 添付資料

- 図1. 背戸裏山の四季-I（桜・鶯・梅・無花果・琵琶・アゲハ・モンシロ蝶・ヒヨモン蝶・紅シジミ・コヒョウモン・胡瓜・茄子）
- 図2. 背戸裏山の四季-II（苦瓜・向日葵・キジバト・ツユムシ・オンブバッタ・カマリ・ショウリョウバッタ・コスモス・栗・柿・蜜柑・メジロ
- 

会員：自然観察研究会；背戸裏山の四季と生き物たち